

実践論文がつなぐ研究と実践

査読、研究倫理、論文執筆のポイント

企画：「発達心理学研究」編集委員会

司会：伊藤大幸（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系）

話題提供者：片桐正敏（北海道教育大学旭川校）

中川 威（国立長寿医療研究センター）

ファシリテーター：大谷多加志（京都光華女子大学健康科学部）

指定討論者：前川圭一郎（足立区こども支援センターげんき）

田中善大（大阪樟蔭女子大学児童教育学部）

砂川芽吹（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系）

原田 新（岡山大学教育推進機構）

山田美穂#（お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所）

村山恭朗（金沢大学人間社会研究域人文学系）

審査・編集方針の改正（2022年8月施行）

◆ 基本方針：「インパクト中心主義」の発展的継承

- 多様な論文のよさを積極的に評価するために諸規定を整備

1. 「インパクト」の多様な評価基準の明確化

2. 限定的な修正再審査の復活

3. 分量制限の緩和

4. 論文種別（**実践論文**・報告論文）の新設

- 実践者がより研究に参画しやすくなるように
- 研究者がより実践に貢献できるように

「発達心理学研究」
は基礎研究者だけの
ものではない

実践論文とは

実践論文は、発達に関係のある課題・テーマに関する実践を伴う研究論文であり、保育・教育、心理臨床、療育・発達支援、育児支援、高齢者福祉、コンサルテーション等、多様な内容を含むものとする。**実践に関する量的または質的データに基づく考察を必須とし、実践的な意義を重視するものである。**（新編集規則第13条）

	インパクト			形式的要件
	オリジナリティ	クオリティ	社会的意義	
原著論文				
基礎研究など	○	○		○
応用研究など		○	○	○
報告論文				
萌芽的研究など	○			○
追証的研究など		○		○
実践論文			○	○

○：重視される観点

※○の有無は相対的な重視の程度を示したものであり、○のない要素が評価の対象とならないことを意味しない。

実践論文の研究デザイン

研究デザイン	特徴
介入研究	人為的な介入の効果やプロセスを検証
グループデザイン	介入の効果を集団の平均値の差や変化で検証
シングルケースデザイン	介入の効果を少数事例で時系列的に検証
事例研究	介入にともなう対象者の状態や語りの変化を記述
調査・観察研究	実践の現場で生じる事実を記録

実践論文と原著論文の違い

◆ 実践を含む研究を原著論文として投稿することもできる

- 重視される評価の観点が異なる

◆ 原著論文

- 学術的独自性（網羅的なレビューに基づく説明）
- 科学研究としての再現性・妥当性
- 現象理解に資する示唆

◆ 実践論文

- 研究課題の実践的重要性
- 実践としての再現性・有用性
- 実践に資する示唆

実践論文と原著論文の違い

適した 研究目的	適した 論文種別	観察研究	介入研究		
			グループデザイン	シングルケース デザイン	事例研究
仮説生成	実践論文	質的研究			事例研究
⇕	⇕	横断研究	前後比較	AB法	
		縦断研究	非ランダム化比較試験	多層ベースライン	
仮説検証	原著論文		ランダム化比較試験	法／反転法	

実践論文とは（まとめ）

- ◆ 人の発達に関わる多様な実践の現場で見出された探索的・萌芽的な知見の報告
- ◆ 学術的な独自性や厳密さよりも実践的な重要性を重視
- ◆ 実践と研究の循環的プロセスを媒介し、実践的なエビデンス体系の構築に寄与

**「発達心理学研究」が基礎研究者&応用研究者&実践者の
協働・交流の場として機能することを目指す**

実践論文に関する臨時特集

- ◆ 「実践論文がつなぐ研究と実践」 （2023年9月）
 - 論文種別の新設にあたり、具体的な「実践論文」のイメージの共有を図る
 - 実践に携わる**発達研究者**だけでなく、保育所・幼稚園、学校、病院、相談機関、福祉施設などの現場で働く**実践者**にも、幅広く論文を投稿していただける素地を作る
 - 実践論文の**審査基準**や**倫理的配慮に関する確認事項**も整備

本シンポジウムの企画趣旨

- ◆ 実践論文の**審査基準**および**倫理的配慮事項**の共有
- ◆ 本特集に依頼論文を寄稿した複数の著者との議論
 - 実践の**論文化**のプロセスや**査読対応**のポイント
 - 編集委員会が定めた**審査基準**や**倫理的配慮事項**への**見解**
 - 著者自身のこれまでの研究・実践の経験も踏まえながら、ざっくばらんに議論

登壇者の紹介

◆ 話題提供

- 実践研究における倫理上押さえておくべきポイント：片桐正敏（北海道教育大学）
- 実践論文の審査で採否を判断するための基準：中川威（国立長寿医療研究センター）

◆ 指定討論

- 前川圭一郎（足立区こども支援センターげんき）
- 砂川芽吹（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系）
- 山田美穂#（お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所）

実践研究における倫理上押さえ ておくべきポイント

実践論文特集編集チーム
北海道教育大学旭川校 片桐 正敏

研究参加者保護と研究倫理

- 研究参加者の保護のために「研究倫理審査委員会」がある



原則、所属先の研究倫理審査委員会の審査を通すことが必要！

- 実験研究や調査研究，効果を検証するような介入研究など・・・
- 特に臨床（群の）研究，要配慮個人情報扱う研究は注意
※必要な手続きを踏んでいない場合は訴えられる場合も

研究倫理について

発達心理学研究に

新たに「実践論文」の種目ができました 😊

ところが・・・

- ☹️ 倫理審査委員会がないので研究倫理の審査が受けられない
- ☹️ 既に実践が始まっていて事前に倫理審査委員会の承認を得ていない

倫理配慮チェックリストを作りました！



[English Page](#)

フォントサイズ: [特大](#) [大](#) [標準](#)

[HOME](#)

[お知らせ](#)

[学会の組織・紹介](#)

[定款・諸規程等](#)

[発達心理学研究](#)

お知らせ
 掲載決定済みの論文
 総目次
 投稿に関する案内
 電子投稿窓口
 学会賞受賞者・受賞論文

[本会編集刊行物](#)

[学会ニュース](#)

[大会のお知らせ](#)

[バックナンバー](#)

発達心理学研究

投稿に関する案内

- 審査の基本方針 (2022年8月)
 - 説明会資料 (2022年3月)
 - 説明会Q&A (2022年3月)

- 投稿に関する書類
 - チェックリスト (Word) 2022年7月以前 (Word)
 - 添付票 (Word) 2022年7月以前 (Word)
 - 電子投稿マニュアル (PDF)
 - 論文原稿 作成のための手引き (PDF) 2022年7月以前 (PDF)
 - 「修正対照表」作成法 (PDF)
 - 著作権譲渡同意書 (PDF)
 - 倫理的配慮チェックリスト (所属機関等の倫理審査委員会の承認を得ていない場合) (PDF)
 - 倫理的配慮Q&A (所属機関等の倫理審査委員会の承認を得ていない場合) (PDF)
 - 「実践論文」執筆の手引き (PDF)



実践研究における 研究倫理審査の ポイント

原則研究倫理審査は通す

**通せない場合（通していない場合）
次の手続きは必ず踏まえ論文内に必ず記載**

インフォームドコンセントの実施

研究の公表可能性について

研究参加者や研究協力機関の責任者に対して
説明と同意があるか？

自由意志での参加であること

1. 研究の実施に際して、「一般社団法人日本発達心理学会倫理綱領・倫理規程」に則った倫理的配慮に留意した。加えて、所属機関の倫理規定がある場合には、それに従って研究を実施した

いいえ

本誌の倫理規定上問題あり

はい

2. 倫理審査委員会の未承認理由

匿名化された既存資料のみを用いた研究であるため

回答終了

倫理審査の対象とならなかったため

当初、研究ではなく実践として行われた活動に関する報告であるため

3. 研究の「**実施**」に際して、研究対象者（や保護者等）に行った説明と同意の手続きを本文に記載した。その際、研究対象者（や保護者等）が自らの意思で研究への協力を拒否または中断できること、またその場合も何ら不利益を受けないことを保証した

いいえ

4. 当初、研究ではなく実践として行われた活動に関する報告であるため

その他（理由が不明瞭）

はい

理由の通り／その他（合理的な理由）

5. 研究成果の「**公表**」について、研究対象者（や保護者等）からの同意を得たことを本文中に記載した。その際、研究対象者（や保護者等）が自らの意思で研究への協力を拒否または中断できること、またその場合も何ら不利益を受けないことを保証した

いいえ

6. 質的なデータを含まない。もしくは、質的なデータが含まれているが、オプトアウトを取っている

いいえ

はい

7.研究成果の「公表」について、研究責任者の研究実施時の所属機関または部局長の承認を得たことを本文中に記載した

はい

いいえ

はい

その理由

その他（理由が不明瞭）

本誌の倫理規定上問題あり

8.機関（学校、施設など）の協力のもとに行われた研究である場合、研究成果の「公表」について、研究協力機関に説明し、同意を得たことを本文中に記載した

はい

いいえ

9.研究対象者の心身の安全の確保や人権の尊重のためにどのような倫理的配慮を行ったかを本文中に記載した

はい/該当しない

いいえ

10.研究によって知りえた個人情報は、関係者や外部に漏洩することがないように厳重に保護・管理した

はい

いいえ

11.論文原稿において、研究対象者や周囲の人々、あるいは団体・組織名が特定できる情報は匿名化するなど、プライバシーに十分配慮した

はい

いいえ

はい

回答終了

学会発表にも倫理チェックが求められます

- 1. 個人情報扱う研究を行っていない、または連結不可の匿名化された資料を扱った
- 2. 研究の実施および発表にあたり、当該研究について倫理審査委員会の承認を得た
- 3. 発表内容に個人が特定される情報が含まれていない（名前や施設名といった固有名詞など）
- 4. 写真、参加者の作品などの要配慮個人情報※3が発表に含まれていない、または、含まれていても発表に際し、それらの情報の公表について本人（未成年の場合その養育者）の同意をとった

学会発表にも倫理チェックが求められます

- 5. 必要な研究の説明（参加の任意と拒否の保障※4，学会での発表の可能性）を研究参加者（未成年の場合その養育者）に行った
- 6. 研究の説明をした際に，研究参加者（未成年の場合その養育者）に承諾を得た，または倫理審査委員会で承認された承諾手続き（オプトアウト※5など）を踏んで実施された
- 7. 研究参加者の所属している所属長に承諾を得た
- 8. 倫理的配慮について，インフォームドコンセント，および承諾を受けたことについて発表論文集に記載した（倫理審査委員会の承認を得た場合は，その旨の記載がある）

実践研究における研究倫理審査のポイント

- インフォームドコンセントが実施できない（許可が得られない）
場合

以下の場合認められることがある

- オプトアウトの実施

本人が特定されないような実践（例えば学級への介入により、学級に所属している子ども達への問題行動が減少した、など集団への介入実践などの形）が該当

- 要配慮個人情報が含まれていないデータの公表

要配慮個人情報とは？

これらは研究参加者(または代諾者)の同意が必須

- 本人に対する不当な差別・偏見その他の不利益が生じないように、取扱いについて特に配慮を要する一定の個人情報を指す

研究などで指す要配慮個人情報の具体例は・・・

- 研究対象者が作成した作品(写真や絵, 文字, 作文など)を含む質的なデータ
- 個人が特定可能なエピソードを含む臨床的なデータ(言語データ)
- 特定の個人の知能検査や心理検査のデータ
- 特定の個人の医学的疾患情報

個人データでも大人数を対象にして統計処理された本人が特定不能なデータは、個人の特定が不可能で、かつ公衆衛生に寄与する
→すべての人に同意を得ずとも第三者へのデータの提供が可能

7.研究成果の「公表」について、研究責任者の研究実施時の所属機関または部局の長の承認を得たことを本文中に記載した

Q 所属機関の長および所属部局の長とは？

A 大学であれば、学長および学部長，研究科長，小中学校の場合は校長，施設の場合は施設長などの管理責任者が該当

Q なぜこのような承認が必要なのか？

A 所属機関の長には研究の実施から成果の公表まで監督の責任を負うため

Q 承諾書などの提出書類が必要かどうか？

A 投稿者には書類の提出は求めずチェック項目への確認のみですが，承諾が得られた何らかの証拠を残しておいてください

最後に

- 本誌第34巻第3号（2023年10月刊行）において、「実践論文がつなぐ研究と実践」と題する臨時の特集を組み、8件の「実践論文」を掲載しました。
- どのような論文が「実践論文」として掲載されるのか、実際に論文を執筆する上では、実例を見るのが最も参考になると思いますので、こちらも併せてご確認ください。

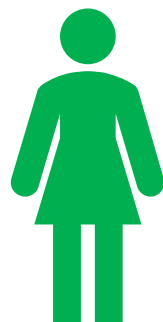
実践論文の審査で 採否を判断するための基準

中川 威

国立長寿医療研究センター

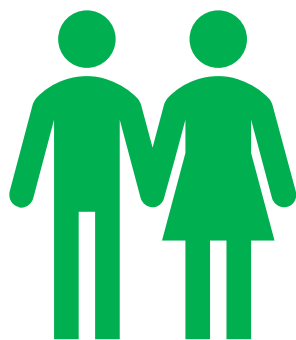


著者



評価

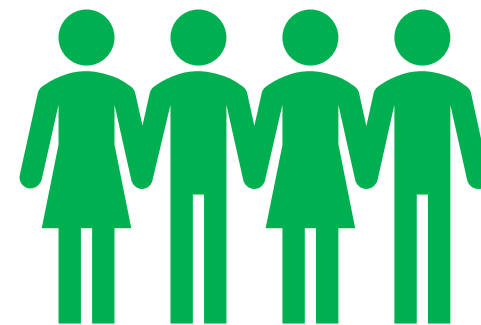
査読者



投稿論文
添付票
チェックリスト
倫理的配慮
修正対照表など

採否の判断

編集委員



構成

- さまざまな研究デザイン
- 研究デザインによらず共通する基準
- 研究デザインによって異なる基準

☞ 詳しくは「実践論文」執筆の手引き参照



さまざまな研究デザイン

■ 研究デザインとは

研究上の問いに答えるために用いる研究の種類

■ 例えば

➤ 養育支援プログラムは養育者に効果があるか？

(野々宮・村山 2023)

➤ 聴覚障害児と支援者がどのように相互交渉しているか？

(前川・片桐 2023)

さまざまな研究デザイン

研究デザイン	特徴
介入研究	介入の効果の検証
グループデザイン	集団の平均値の差や変化
シングルケースデザイン	少数事例の時系列変化
事例研究	対象者の状態や語りの変化
調査・観察研究	介入を加えない、実践の記述

さまざまな研究デザイン

■ 例えば

➤ 養育支援プログラムの効果 (野々宮・村山 2023)

👉 グループデザイン

養育者集団の介入前後の変化

👉 事例研究

養育者個人の介入前後と介入中の変化

➤ 聴覚障害児と支援者の相互交渉の記述 (前川・片桐 2023)

👉 調査・観察研究

養育者の発話と非言語的サインの変化

児童の非言語的サインの変化

研究デザインによらず 共通する基準

論文の構成

採否を判断するための基準

問題

- ・ 研究の目的と意義が明記されている。
- ・ 問題、結果、考察が整合している。
- ・ 必ずしも網羅的レビューは求めない。

方法

- ・ 参加者の情報、実践の手続きが再現できるように説明されている。
- ・ 必ずしも高い水準の方法は求めない。

結果

- ・ 結果が客観的に記述されている。
- ・ 必ずしも高度な統計分析は求めない。

考察

- ・ 実践への示唆が明記されている。
- ・ 必ずしも学術的な示唆は求めない。

研究デザインによらず 共通する基準

■ 例えば

➤ 養育支援プログラムの効果 (野々宮・村山 2023)

論文の構成	採否を判断するための基準
問題	非専門職による介入効果は未検証
方法	調査協力者、プログラム、変数の説明
結果	変数の介入前後の変化
考察	専門職のいない地域での介入への示唆

研究デザインによらず 共通する基準

■ 例えば

➤ 聴覚障害児と支援者の相互交渉の記述 (前川・片桐 2023)

論文の構成	採否を判断するための基準
問題	聴覚障害児への関係発達支援の知見の欠如
方法	発話と非言語的サインの分析手続きの説明
結果	発話と非言語的サインの変化
考察	関係発達支援への示唆

研究デザインによって異なる基準①

- 介入研究：グループデザイン
 - 集団の平均値の差や変化を検証

論文の構成	採否を判断するための基準
問題	<ul style="list-style-type: none">・ 独立変数や従属変数を説明する。
方法	<ul style="list-style-type: none">・ 変数や介入方法を再現できる形で説明する。・ 信頼性と妥当性が確認された尺度の使用が望ましい。・ 必ずしもランダム化比較研究、フォローアップ調査、検出力分析は求めない。
結果	<ul style="list-style-type: none">・ 変数の介入前後の変化を統計的に分析する。・ 効果量の報告が望ましい。

研究デザインによって異なる基準②

- 介入研究：シングルケースデザイン
 - 少数事例の時系列変化の検証

論文の構成

採否を判断するための基準

方法

- ・ 変数を反復測定する。（少なくとも3回、できれば5回以上が望ましい）
- ・ 変数の信頼性が確認されることが望ましい。
- ・ 必ずしも妥当性の高い研究デザインは求めない。

結果

- ・ 変数の変化をグラフ化し、目視分析する。
- ・ 社会的妥当性（介入の受入度など）を報告する。

研究デザインによって異なる基準③

■ 介入研究：事例研究

➤ 対象者の状態や語りの変化の検証

論文の構成 採否を判断するための基準

結果

- ・ 介入と変化を説明する。
- ・ 質的データだけでなく、量的データを含む報告が望ましい。
- ・ 図表を用いることを推奨する。

考察

- ・ 独りよがりな解釈を避け、結果を客観的に記述する。

研究デザインによって異なる基準④：量的研究

■ 調査・観察研究

➤ 介入を加えない、実践の記述

論文の構成

採否を判断するための基準

方法

- ・ 対象者の基準や選定手続きを説明する。
- ・ 信頼性と妥当性が確認された尺度の使用が望ましい。
- ・ 検出力検定、無作為抽出、高度な統計分析は求めない。

考察

- ・ 結果がどの程度一般化できるか解釈する。
- ・ 結果の偏りを解釈する。

研究デザインによって異なる基準④：質的研究

■ 調査・観察研究

➤ 介入を加えない、実践の記述

論文の構成

採否を判断するための基準

方法

- ・ 対象者の基準や選定手続きを説明する。
- ・ 多様な方法の中から特定の方法を選ぶ過程、分析手続きを説明する。
- ・ 分析手続きの信頼性（信憑性）を確認することが望ましい。

考察

- ・ 結果をどの文脈に転用できるか解釈する。

まとめ

- さまざまな研究デザイン
 - 研究デザインによらず共通する基準
 - 問題：研究の目的と意義
 - 方法：再現できる手続き
 - 結果：客観的な報告
 - 考察：実践への示唆
 - 研究デザインによって異なる基準
 - 介入研究
 - 調査・観察研究
- 👉 詳しくは「実践論文」執筆の手引き参照

